

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 3 年 10 月 14 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	5名	

※事業所記入

事業所番号	3870103490
事業所名 (ユニット名)	グループホームすみれの園 抹茶ユニット
記入者(管理者) 氏名	永見 圭
自己評価作成日	令和 3年 9月 20日

<p>【事業所理念】</p> <p>私たちは、利用者の方々の「その人らしい生活」を大切に、穏やかで安心感にあふれる充実した生活を送ることができるようサポートします。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>市内の中心部から少し離れた住宅地に、事業所は立地している。事業所では、職員同士の関係性が良好で、職員が相互に声をかけ合い、協力しながら支援することができており、利用者は穏やかで楽しそうに生活を送ることができている。また、ホーム長や管理者は、職員が何かあれば相談でき、話しやすい存在となっており、風通しの良い職場環境づくりができている。さらに、事業所の開設当初から、隣家の住民との交流が続いており、収穫した野菜を分けてもらったり、庭に咲いた花をもらうなどの良好な関係づくりができている。その近隣住民の紹介から、地域住民とのネットワークが広がっており、運営推進会議の参加メンバーも増加している。現在のコロナ禍において、面会や外出などの様々な制限があるものの、コロナ禍の収束後の活動再開の際には、家族や地域住民が参加する行事や外出など、さらなる活動の広がりが楽しみな事業所である。</p>
--	---------------------------------	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	日々の会話の中で利用者の思いや意向を確認する要にしている。	◎	/	◎	入居時に、職員は利用者や家族から、思いや希望などの聞き取りをしている。また、日々の支援の中でも、利用者の思いを丁寧に聞き取り、職員間で共有できるよう努めている。さらに、事業所では、聞き取った利用者の意見や希望は、介護記録に残すほか、積極的に介護計画に盛り込むよう取り組んでいる。
b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	利用者の表情や態度から読み取るようにしている。	/	/	/			
c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	ご家族様が来所されたときや電話で話すようにしている。	/	/	/			
d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	利用者の言動を記録している。	/	/	/			
e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	日常生活の中で利用者の思いを確認しながら複数の職員で話し合っている。	/	/	/			
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入居時に本人や家族に聞き取りをし、入居後もお話の中で確認をしている。	/	/	○	入居時に、職員は利用者や家族から、生活歴や馴染みの暮らし方などを聞き、アセスメントシートに情報を記録している。また、以前利用していた介護サービス事業所や介護支援専門員からも情報を聞き、把握することもある。
b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	日々の会話やケアの中から利用者の有する力を確認し職員間で話し合い共有している。	/	/	/			
c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	その時々感情の変化や言動を記録、申し送りして情報共有を行っている。	/	/	/			
d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	要因が何か話し合い、関わり方を見直している。	/	/	/			
e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	利用者それぞれの違いを把握し、その方に合った生活の流れになるよう努めている。	/	/	/			
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	日常の中で気がついた本人の求めていることを職員、家族で話し合い共有している。	/	/	◎	利用者等から聞き取った情報は、月1回実施するユニット会議を活用して職員間で情報共有するとともに、話し合いをしながらより良いサービス提供に努めている。また、利用者から出された意見は、可能な範囲で介護計画のサービス内容に反映できるようにしている。
b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	その方にあった支援方法を職員で話し合っている。	/	/	/			
c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	課題を明らかにし家族とも話し合っている。	/	/	/			

愛媛県グループホームすみれの園

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	思いや意向、暮らし方が反映されるように努めている。				事前に、職員が利用者や家族の思いや意見を聞くほか、関係者の意見を聞きながら職員間で話し合い、介護支援専門員を中心に、利用者等の意見を取り入れた介護計画を作成している。また、利用者の重度化もあり、最近では電話連絡時を活用して家族から意見や意向などの聞き取りをすることが多くなってきている。さらに、月1回実施するユニット会議の中で、介護計画の内容を検討して、積極的に職員の気づきやアイデアなども取り入れることができています。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人や家族からの意見や情報を取り入れて作成している。	○			
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	以前の生活等を家族から聞き取り、職員間で話し合い作成している。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	コロナ禍の為出来る範囲で協力体制を取れるよう努めている。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	個人記録やチェック記録を通して職員間で把握、理解している。			◎	ユニット会議の中で、介護計画の内容の話し合いをしていることもあり、内容を把握して職員間で共有している。また、事業所には計画のサービス内容に沿って、毎日のサービスの実施状況や目標達成をチェックできる工夫された表を活用して、分かりやすく記録に残すことができています。また、手書きの記録は丁寧に記載されており、今のところ、職員にとっても記録作業が過剰な負担にはなっていない。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	日々のケアの実践を介護記録に残し職員間で確認している。			◎	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	細かな言動も記録するようにしている。			○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	新たな築き等があれば記録するようにしている。			○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	3ヶ月毎、若しくは必要時に見直しを行っている。			◎	利用者の状態に特段の変化がない場合にも、介護計画は3か月に1回見直しをしている。また、月1回実施するユニット会議を活用して、利用者の現状を確認するなどのモニタリングを実施するとともに、計画の見直しの必要性も検討している。さらに、モニタリング時に変化が見られた場合や入退院時には、現状に即した介護計画の見直しをしている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	毎月評価を行い確認している。			◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	本人、ご家族の意向を確認し現状に即した計画を制作している。			◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	毎日のミーティングや毎月の会議で話し合っている。			◎	毎日夕方に行うショートミーティングや、月1回実施するユニット会議を活用して職員間で話し合い、情報共有をしている。緊急案件がある場合には、その日の出勤職員で話し合うとともに、参加していない職員にも会議録を確認してもらい情報が共有できるよう努めている。また、月1回ユニット会議の中で内部研修を実施し、職員が交代で講師役を務めている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	気がついたことを率直に話し合い活発な意見交換を行えるようにしている。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	出来る限り多くの職員が参加できるように努めている。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしきみをつくっている。	○	申し送りや会議録を通して情報共有を行っている。			◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしきみをつくっている。	○	申し送りや記録の確認を行うことで情報を共有している。			○	日々、申し送りやショートミーティングを実施し、口頭で情報を伝えているほか、日誌や申し送りノート等を活用して、より確実な情報伝達をしている。また、日誌やノートに確認欄は設けていないものの、口頭での申し送りや確認により確実に伝えることができています。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	口頭での申し送りや申し送りノートを活用し重要な情報が全ての職員に伝わるようにしている。	○			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	外気浴や散歩、花、野菜の手入れなど意向に沿えるよう努めている。	/	/	/	利用者一人ひとりに合わせて、衣類や飲み物等の選択肢を用意し、職員は利用者自身で選んでもらうよう支援している。また、利用者にとって特にこだわりのない事柄は、選択してもらうこと自体が利用者の負担になる場合もあるため、個別での対応にも努めている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	飲み物やおやつなどが良いかお伺いし提供している。	/	/	◎	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	その都度お話しを傾聴し自己決定できるよう支援している。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	食事や入浴の時間はある程度決まっているがその他は声かけはするが本人のペースで行ってもらっている。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	日常の会話やレクリエーション等で明るい雰囲気を作っている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	表情や反応から意向や思いを汲み取って支援している。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	内部研修にて人権や尊厳についての意識向上を図り言葉かけや態度に注意している。	/	○	◎	難聴の利用者など、時には職員の声かけが大きくなることも見られるが、職員は意識してプライバシーに配慮した支援に努めている。また、訪問調査日には、衣類の乱れている利用者にも、さりげなく職員が整える様子を見ることができた。さらに、居室の入室時には、必ずノックや声かけをしてから入室することができている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	○	声の大きさに注意し支援を行っている。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	利用者のプライバシーに配慮して行っている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室訪問時は必ずノックをしてから入室している。	/	/	◎	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	理解し遵守している。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	利用者との信頼関係を大切にしお互いに感謝しあえるよう関係性を築けるよう努めている。	/	/	/	事業所では、利用者同士や職員との相性などを事前に把握し、トラブルを未然に防ぐことができている。また、配席やいすの向きを変えるほか、相性が悪く、トラブルの多かった利用者にも、以前ユニット間を移動してもらい、対応したこともある。さらに、現在は利用者同士で助け合う姿も見られ、穏やかに過ごすことができている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者同士のコミュニケーションの大切さを理解している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	利用者同士の関係性やそれぞれの性格等を把握しトラブルの無いよう時には職員が間に入りながら支援している。	/	/	◎	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	早めに仲裁に入り周りの利用者が不安にならないよう努め、当事者にはそれぞれのお話をお聞きし穏便に済むよう努めている。	/	/	/	

愛媛県グループホームすみれの園

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	見学時や入居時に本人や家族からお話を聞いている。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	本人や家族から確認し把握している。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	コロナ禍の為直接会うことは難しいが知人や友人に関して家族から電話でお伝えしていただいている。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	△	コロナ禍の為現在は難しいが終息後は気軽に来設していただけるよう接していきたいと思えます。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	コロナ禍の為庭先程度の散歩や外気浴、近所のドライブ等しか行えていないが、終息後は利用者の希望の場所への外出を行いたいと思えます。	×	○	○	現在のコロナ禍において、買い物や外食などの外出できる機会は激減している。利用者の状態にかかわらず、近隣を散歩したり、敷地内にある畑の野菜の生育状況を見に行ったり、外気浴をするなど、利用者が気分転換できる機会づくりに努めている。また、少人数でドライブに出かけ、車窓から景色を楽しむこともできている。さらに、洗車に行く際に利用者も同行するなど、ちょっとした外出ができる機会を活用しながら、少しでも利用者が楽しめるよう工夫している。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	コロナ以前も外出時は職員のみで行っていた。現在はコロナ禍の為外部の方との接触をなるべく控えている。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	天気の良い日には庭先に出て気分転換をして頂いている。			○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	×	コロナ禍の為行えていない。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	研修にて認知症の理解を深め日々のミーティングにて利用者の状態の確認を行っている。				事業所では、時間がかかっても利用者自身ができるように、職員はしっかりと待つ支援をすることができている。また、他の利用者がしている様子を見ながら、一緒に作業を始めようとする利用者もおり、職員は必要以上に口や手を出しすぎないよう配慮している。さらに、散歩や体操などを取り入れ、利用者の心身機能の維持に努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	利用者の現在の状態を理解した上で散歩や体操、レクリエーションを実施している。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	利用者の能力を把握し、掃除や洗濯物のたたみ、食器拭きをお願いしている。	◎		◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	日々の生活の中で有する力を見出しその方に合った役割や出番作りをしている。				家事や手芸が得意で、やりがいのなっている利用者や、利用者と一緒に体操することも嫌がる利用者があるなど、一人ひとりの楽しみが異なるため、職員は把握しながら個別の対応に努めている。洗濯物干しやたたみ、台拭き、レクリエーションなど、利用者に応じた役割や出番づくりにも取り組んでいる。また、他の利用者と一緒に作業や活動をしたがらない利用者には、個別に散歩に出かけるなど、利用者一人ひとりに楽しみを見つける工夫をしている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	日常生活の中で役割や楽しみを持てるように支援している。	○	◎	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	コロナ終息後は地域の方とのコミュニケーションを増やしていけるよう努めたい。				

愛媛県グループホームすみの園

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	更衣時声掛けし本人の意向を尊重し選択できるようにしている。				馴染みの美容室へ家族と一緒にしかけていた利用者もいるが、現在はコロナ禍において中止している。事業所では、訪問理美容を手配し、満足度も高く、ほとんどの利用者が利用して整髪をしている。また、訪問調査日には、職員が利用者の衣類の乱れをさりげなく直している様子を見ることができた。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	本人や家族の希望を聞きそれに応じて支援している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	選択肢を提案し自己決定のサポートを行っている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	季節に合った服装を本人と選択している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	食べこぼしや汚れはさりげなく声かけするようにしている。	◎	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	コロナ禍の為希望の店舗にはいけない。訪問理美容を活用している。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	整容や更衣を本人にお聞きしながら一緒にやっている。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食事はただ栄養を摂取するということだけでなく楽しみや生きがい生活リズムを感じるための重要な行動であることを理解している。				毎食、ユニット毎に職員が順番に、利用者調理の下ごしらえを手伝ってもらいながら調理をしている。その週などの調理の当番になっている職員が、前もってメニューを考え、それに合わせて食材を注文し、週3回程度スーパーから食材を配達してもらっている。利用者に食べたいメニューを聞いているものの、あまり意見が出ないため、職員が季節感のあるものや、栄養バランスなどに配慮した献立を考えている。共用スペースにあるオープンキッチンで調理しており、利用者は調理の音や匂いも感じることができている。茶碗や箸は、入居時に持参してもらい、利用者は使い慣れた物を使用している。また、利用者の食事形態に応じて、あらかじめ切り分けて配膳したり、ミキサー食の対応をしたりするなど、利用者が食べやすい工夫している。さらに、利用者と一緒に食事を食べることはできないものの、職員は声かけや見守り、サポートをしている。最近、利用者から「握り寿司が食べたい」というリクエストが出され、職員はコロナ禍が収束し、みんなで外出できるようにになれば、回転寿司の外食に出かけることを検討している。加えて、栄養士までのアドバイスはもらえていないものの、職員間で話し合うことができている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	リクエストメニューなどを取り入れ食器拭きなどの後片付けにも参加していただいている。			◎	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	簡単な調理や後片付けに参加していただくことで、自信や達成感につなげている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	会話の中で好きなもの嫌いなものを把握しアレルギー等に関しては入居時に聞き取りしている。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	○	季節に応じた食材を選び提供している。			◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いりどりや器の工夫等)	○	一人ひとりの状態に合わせて食事の形態や盛り付け彩り等も工夫している。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使いやすいものを使用している。	○	本人が持って来られたものや使いやすいものを提案している。			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	一緒に食事は摂れていないが利用者一人ひとりの様子を観察し、さりげないサポートや介助を行っている。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	食事内容を声かけしながら食事介助を行っている。		◎	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	食事量や水分摂取量はその都度記録し把握している。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	本人の好きなものや好きな飲み物を提供し低栄養や脱水にならないようにしている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	ミーティング時に話し合ったり、本やテキストを参考にしている。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	食材の温度管理等に注意し、調理器具は毎日ハイターで消毒を行っている。				

愛媛県グループホームすみの園

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	口腔ケアの重要性を理解し利用者に合わせて必要時には介助を行っている。				毎食後、利用者は歯磨きなどの口腔ケアを実施している。支援が必要な利用者には、職員が付き添いリビングに設置されている洗面台で歯磨きを行い、磨き残しなどのフォローをしている。また、定期的に、事業所では利用者の口腔内の状況を把握することができており、痛みや出血などの不具合が生じた場合には、歯科医の訪問診療に繋げることができている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口腔ケア時に確認している。			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	訪問歯科協会からのパンフレットやポスターを参考にしている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	毎日洗浄を行い不具合が発生した場合には協力医療機関に連絡し治してもらっている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	しっかり磨けていないところを介助するようにしている。			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	何かあれば協力医療機関に連絡し訪問歯科で診てもらっている。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	△	安易にリハビリパンツやパッドを使用してしまっていることがある。				職員は、利用者一人ひとりの排泄チェック表で、排泄パターンを把握し、声かけやトイレ誘導をしている。紙パンツやパッドなどの排泄用品の使用について職員間で話し合い、利用者や家族に相談のうえで使用している。中には、布パンツで生活しても問題ないと思われる場合にも、失敗などの不安から、「紙パンツの方が安心できるから」などという利用者もおり、利用者一人ひとりの要望にも配慮している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	便秘のメカニズムについて理解している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄チェック表を活用し一人ひとりの習慣、パターンを把握している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	利用者の状態を確認し、それぞれに合った排泄方法を行っている。	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	職員間で意見交換や情報共有を行い、また医療機関とも連携し、服薬等も相談している。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄チェック表をもとに早めの声かけ、誘導を行っている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	利用者の状況に合わせてその都度対応している。また使用物品についても本人や家族と話し合っている。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	状態に合わせて使い分けしている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	食物繊維等を取り入れたバランスの良い食事の提供を心掛けている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	△	時間帯等はだまかに決めて入浴していただいているが、拒否等があった場合には翌日に入浴していただいている。	◎		○	事業所ではある程度の曜日や順番を決めて、利用者に声をかけ、入浴してもらっている。職員は利用者の希望に合わせて、随時変更しながら入浴支援の対応をしている。また、浴槽をまたぐことが難しくなった利用者には、浴槽に浸かれないため、利用者や家族に相談して、シャワー浴の対応をしている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	職員との会話、リラックスできるような雰囲気作りにも気をつけている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	必要なところのみ介助するようにしている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	本人の話を傾聴し、拒否の原因を探り、会話や時間帯等の工夫をしている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前にはバイタル測定を行い入浴後にも体調の変化がないか注意している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	記録や申し送りで確認している。	/	/	/	就寝前に、眠剤を処方されている利用者もいるものの、ほとんどの利用者は、夜間に良眠することができている。主治医には、利用者の睡眠状況について、随時様子を報告している。中には、毎日起床が夜中の2～3時頃の利用者もいるものの、睡眠不足によりつらそうな様子は見られないため、見守りながら利用者に応じた生活リズムで過ごしてもらっている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中にレクリエーション等で運動し、庭先での日光浴なども取り入れ生活リズムができるようにしている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	日中の過ごし方を工夫し、それでも夜間眠りづらいことがあれば主治医に相談している。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	自室やリビングで休めるよう自由に過ごしていただいている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	要望があれば電話や手紙のやり取りの支援をしている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	要望があれば支援しているがこちらから手紙や電話をさせませか？等の声かけはあまり行っていない。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	家族の依頼、了承があれば電話している。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	お手紙をお渡しし一緒に読んだり、要望があれば返事や電話をしている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	ご家族に理解や協力はしてもらっているが、家族から電話や手紙をくれるようにはお願いはしていない。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	△	一部の入居者以外、お金の管理は職員がしている。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	新型コロナウイルスの流行前は一緒に買い物に行っていた。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	買い物先への協力を得る働きかけは特には行っていない。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	家族と相談の元、小口現金という形でお金をあずかりそこから買い物や必要時に使用している。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	入居時に話し合っている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	管理方法の説明と毎月出納の確認もしていただいている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	状況や希望に応じて対応している。	/	◎	◎	現在のコロナ禍において、事業所では外出や面会の制限を設けているものの、利用者や家族の希望には、可能な範囲で対応できるよう努めている。また、他の利用者と一緒に体操するのが嫌な利用者には個別で散歩に出かけたり、面会を切望される利用者には、窓越しでの面会に対応したりするなど、工夫した対応をしている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと		
(3)生活環境づくり											
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	清掃を行いお花を植えている。	○	◎	○	現在のコロナ禍において、事業所では面会制限を設けているため、玄関の施錠はしていないものの、来訪者にはインターホンでの対応をしている。また、手先が器用な利用者を中心に、毎月季節感のあるウェルカムボードを作成してもらい、来訪者を出迎えている。さらに、広々とした玄関は整理整頓され、入りやすい雰囲気を感じられるよう工夫されている。		
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものを置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	リビングには利用者と一緒に作った季節の飾り物をかざったり廊下の壁には行事等の写真を貼っている。	◎	○	◎	共用空間には、利用者と職員と一緒に作成した季節の飾りつけをするなど、明るい雰囲気が感じられる。また、毎日職員が掃除や消毒を行うとともに、温度調整や換気もされ、快適な空間となっている。さらに、共用空間は整理整頓され、利用者の歩行や車いすがスムーズに通れるようにしている。		
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	清掃は毎日行っており、利用者に合わせて電気やカーテンの調整、エアコンで温度調整をしている。					◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節の飾りの制作や行事を行い、また庭先のお花や野菜の栽培を一緒に行っている。						◎
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	リビングや居室を本人の自由に行き来していただいている。						
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	△	戸の開け閉めの際、みえてしまっていることがある。						
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	家財等使い慣れたものを持ってきていただき落ち着いて過ごせるようにしている。	◎		◎	居室には、利用者の趣味の物や写真を飾っているほか、自宅からいすやテレビなどを持ち込み、居心地の良い空間づくりをしている。		
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	利用者のできること、わかることを職員間で共有し自立した生活が送れるよう支援している。			◎	トイレなど、利用者が場所を分かりやすいよう大きな表示をしている。また、居室の入り口には、利用者の氏名と写真を貼り、居室を間違えないよう配慮されている。さらに、共用空間や廊下は整理整頓され、利用者の動線が確保されている。		
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	不安や混乱があったときの状況を確認し原因を検討し次に同じようなことがないようにしている。						
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうし、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	居室に馴染みのものや趣味などの道具を置きいつでも手に取れるようにしている。						
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らすことへの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	△	利用者の状況で鍵をかけることもあるが、外に出たいとの要望があれば一緒に外に出るようにしている。	x	◎	○	職員は鍵をかける弊害について、内部研修等で学び、十分に理解をしている。事業所では、日中玄関の施錠はせず、夜間は防犯のため施錠をしている。また、その時々利用者の状態や職員配置により、必要最低限でユニットの入り口を施錠をすることもある。		
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	△	鍵をかけ始めた際に家族に説明し理解を得ている。						
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	△	玄関の鍵はしていないがユニット口の鍵は状況に合わせてしている。要望があれば一緒に外出している。						

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	アセスメント表の確認や受診往診ノートの確認で把握している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	毎朝バイタル測定を行い記録している。またバイタルの異常や体調不良、本人の訴え等も記録し必要時には主治医へ相談している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	気になることやわからないことがあれば早めに主治医に連絡するようにしている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	面談時に現在のかかりつけ医等を確認し、入居後の医療について家族、本人の希望にそって医療が受けられるようにしている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	家族、かかりつけ医、事業所で連絡を取り合い適切な医療が受けられるよう配慮している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	通院や受診時には緊急時以外は前もって本人、家族に伝え合意のもと行っている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院時はサマリを作ったり、入院先の看護師に直接、情報提供を行っている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	定期的に連絡をし、現在の状況を確認している。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	病院関係者とは常に情報交換をしている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	日常の状態に関しては訪問診療時に常に主治医に報告し何か異常があった場合には早めに連絡し相談している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	24時間医療機関と連絡が取れる体制がある。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	毎日バイタルチェックを行い、主治医に相談しながら状態にあった支援をしている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	薬の説明書をファイルにまとめ職員全員が把握できるようにしている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	必ず職員2名で薬の確認を行い誤薬がないようにしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	状態の変化を記録し症状によっては直ぐに主治医に報告するようにしている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	特に薬の変更があった場合は服薬後の状態を記録し医療機関へ情報提供を行っている。				

愛媛県グループホームすみれの園

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	契約時に重度化の指針の説明をし状態の変化に合わせて意向の確認をしている。	/	/	/	事業所には、「重度化した場合の対応に係る指針(看取り介護指針)」があり、入居時に利用者や家族に説明して、同意を得ている。看取り介護の希望がある場合には、状態に応じて、利用者や家族、主治医を交えて丁寧に話し合い、今後の方針を検討している。また、24時間体制で訪問診療を行っている主治医が多く、急変時にも対応してもらえることから、利用者や家族にも安心感があるとともに、職員も安心して支援することができている。さらに、浴槽をまたぐことが困難になった利用者には、一般浴槽に浸かれず、シャワー浴となってしまうことを伝えるなど、重度化した際に事業所として対応できることの限界について、丁寧に利用者や家族に説明している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	本人の状態の変化に合わせて家族、医師を交えてカンファレンスを行い今後の方針について話し合っている。	○	/	◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	状態の変化等、急変時の対応の話し合いを行っている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	事業所のできること、できないことに関しては契約時から本人の状態の変化があった時などその都度、説明理解を得ている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	医療との連絡を密に取り家族の希望や本人の思いを汲み取りながら支援にあたっている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族の話に傾聴している。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	定期的に職場内研修を行っている。	/	/	/	/
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	感染症が発生した場合の訓練は行っていない。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	インターネットや松山市からのメールで確認している。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	医療機関やインターネットから情報を収集し対応している。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	手洗い、アルコール消毒、マスクの着用、検温を行っている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	家族との連携を図り共に本人を支えていく関係を築けている	/	/	/	毎月、利用者毎の担当職員を中心に、手紙を書いて送付し、利用者の様子を伝えている。必要時には、電話連絡で利用者の近況を伝えることもある。事業所内の行事報告や予定も知らせることができているものの、現在のコロナ禍において、事業所の面会を控えていることもあり、行事への参加は自粛してもらっている。また、運営推進会議や防災の備え、外部評価のサービスの評価の取組みについて、事業所として実施している活動内容が、利用者家族等アンケート結果から、家族に十分に伝わっておらず、理解が得られていないことが窺えるため、今後は、写真付きの分かりやすい事務連絡を作成したり、コロナ禍の収束後には家族の来訪時に報告をしたりするなど、家族の理解が得られるような取組みを期待したい。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	家族との関係は良好だが現在は新型コロナウイルス感染対策のため面会は制限させていただいている。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	△	毎月のお手紙で行事の予定はお伝えしているが一緒に何かを行うということは現在控えている。	/	x	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	お手紙以外に電話でも近況の報告をしている。	/	◎	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	何か気になっていることはありませんか？と問いかけお話を傾聴している。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	本人と家族のこれまでの関係性を大切にし来設時や電話で説明している。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	電話や手紙でその都度報告している。	/	x	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	コロナ禍の為家族を交えての行事等は行っていない。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	状態に合わせてその都度説明している。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	定期的に連絡し、現在の希望や思いを伺っている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	お時間をつづいていただき具体的に説明している。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	契約時にも説明しており、退去先の支援も行っている。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	具体的な説明を行い文書で示している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	△	運営推進会議で認知症に関する勉強会等をしてきたが現在はコロナ禍の為、文章開催している。	/	○	/	現在のコロナ禍において、事業所では外出制限や面会制限を設けているため、地域との積極的な交流は控えている。コロナ禍以前は、地域の清掃活動に参加したり、運動会などの地域行事に参加することができていた。現在は、事業所周辺の散歩時に、地域住民と挨拶をしたり、近隣住民から野菜や花の差し入れをもらったりするなどの交流は継続している。また、運営推進会議は書面開催となっているため、会議の参加メンバーとの交流も中断しているが、集合形式の会議の再開時には、積極的な地域行事への参加なども期待することができる。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	以前は地域の行事に利用者と一緒に参加していたが現在はコロナ禍のため控えている。	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	地域の消防士の方を中心に防災に関して協力支援に力を入れてもらっている。	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	近所の方から、庭に花が咲いたのでと持ってきてくださることもある。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	散歩等で顔を合わせたときにはあいさつをしている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	以前は夏祭りにきていただいたりボランティアに来ていただいたりしていた。現在はコロナ禍のため控えている。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	施設の周りに何があるのかを把握し、利用者の希望や関係性を考えながら散歩をしたり以前は一緒に買い物をしてきた。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	コロナ禍以前は運営推進会議に参加していただいたり利用者と一緒に町内清掃に参加し関係を深めていた。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	地域の方は毎回参加されていたが家族の参加はほとんどなかった。現在は文書開催を行っている。	x	/	○	現在のコロナ禍において、運営推進会議は文書開催となっている。コロナ禍以前の集合形式で会議には、民生委員や近隣住民など、幅広く参加を得ることができていた。また、会議へ家族の参加が少ないことが課題となっていたが、ホーム長等は全ての家族に会議への参加を呼びかけ、「今後、行事と合わせて会議を開催する」などの工夫を検討している。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	活動状況を文章で報告している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	x	文章開催なので提案、意見交換等は出来ない。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	x	文書開催なので特に日程や時間帯は考慮していない。	/	/	○	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	△	介護保険課や包括支援センターにFAXしている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念に基づいてケアプランを作成し、サービスを実施している。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	利用者や家族には契約時にお伝えしている。	○	◎		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	定期的職場内での研修を行っている。コロナ禍のため外部での研修の参加は少なくなっている。				毎月実施するユニット会議を活用して内部研修を実施し、職員が順番に講師役を務めるなど、スキルアップに努めている。ホーム長は、定期的に職員と面談をする機会は設けていないものの、業務の中で職員と1対1で話す機会があれば、ゆつくりと話を聞くことができている。また、ホーム長と管理者は、日々の職員の様子に気を配りながら、何かあれば相談しやすいよう配慮しており、職員の聞き取りからも、「ホーム長や管理者に対して、何でも話しやすい」などの話を聞くことができた。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	入社3か月程度で夜勤の業務ができるように育成している。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	個別面談を行い職員から話を聞き今後についても向上心を持って取り組んでいけるよう話をしている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	コロナ禍以前は外部の研修に積極的に参加してもらっていた。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	ユニット長以外の職員にも話を聞き悩みやストレスが解消できるよう助言している。	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	年に2回の虐待に関する研修や3か月毎に身体拘束適正化検討委員会を開き内容を職員全員に周知している。				事業所では、身体拘束適正化委員会を開催して職員間で話し合うとともに、虐待防止に関する内部研修を実施している。利用者の心身状況により、職員は対応に苦慮することがあるものの、そのような場合には周りの職員が一緒にかかわり、助け合いをしてくれるなど、安心して日々の支援ができています。また、不適切なケアが見られた場合には、ホーム長や管理者等が確認し、注意喚起をしている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	職員の言動をみながらケアについて話を聞き助言している。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	研修を通して周知している。				
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	職員の表情や話す内容に注意し普段と様子が違うなと感じた場合は個別に話を聞くようにしている。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	内部研修や身体拘束適正化検討委員会で理解を深めている。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	身体拘束適正化検討委員会で行っている。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	契約時に原則身体拘束は説明している。家族から要望があった場合も本当に必要なのかをしっかりと話し合うようにしている。				

愛媛県グループホームすみれの園

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	研修を通して理解を深めている。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	利用者、家族の現状を把握しそれぞれに合った情報を提供している。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	相談の内容によっては包括支援センターや社会福祉協議会へ繋げている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルを作成し研修を行っている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	定期的な訓練は行っていない。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハットも記録に残し職員間で情報を共有し再発防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	職員間で話し合い検討している。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルを作成し検討している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	マニュアルに沿って対応している。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情の原因をしっかりと把握し職員間で話し合い改善や結果をお伝えし良好な関係作りに努めている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	日常の言動やお話から意見や希望を聞くようにしている。			○	日頃から、事業所では、利用者や家族から何かあれば相談をしてもらえるよう、話しやすい雰囲気づくりに努めている。ホーム長等は、あまり利用者や家族から意見が出されない現状があり、今後意見を出してもらいやすいような工夫を検討している。また、職員はホーム長等に、日々の業務の中で意見を伝えることができるほか、ユニット会議の中でも伝えることができ、全ての職員は積極的に発言することができる。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	来所時や電話で意見や思いを聞くようにしており、玄関に意見箱の設置をしている。	◎		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	状況に応じて窓口の情報提供を行っている。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	職員と一緒に現場で働き、直接話も聞いている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	毎月の会議で職員の意見を聞き利用者の暮らしがより良くなるために話し合っている。			◎	

愛媛県グループホームすみれの園

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	年に2回実施している。				外部評価の自己評価は、職員の意見を参考にしながら作成している。外部評価のサービスの評価結果は、運営推進会議の中で報告するほか、家族にも報告している。これまで、運営推進会議の参加メンバーや家族等から外部評価に対する意見があまり引き出せていなかったことから、ホーム長等は、今後は報告方法等の工夫を検討している。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	評価を確認し課題の検討を行っている。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	現在は家族や地域からの評価は受けていない。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	運営推進会議の議事録は市にFAXしている。	○	○	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	運営推進会議は文章での開催の為会議での確認は出来ない。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	火災、地震、風水害に対する訓練を行っている。				年3回、消防署の協力を得ながら、火災や地震などの災害を想定した避難訓練を実施している。現在のコロナ禍において、消防署等の協力は得られておらず、事業所の職員のための訓練となっている。また、事業所からの避難経路のほか、近隣の避難先を職員手づくりの地図を作成して各ユニットの廊下に掲示するなど、防災意識を高めている。また、運営推進会議の参加メンバーの中に、防災士の資格を持つ地域住民がおり、防災に関する様々な指導を受けることもできている。利用者家族等アンケート結果から、コロナ禍で来訪する機会が激減していることもあり、防災に関する理解が得られていないことが窺えるため、訓練の様子を家族に伝えたり、コロナ禍の収束後には家族に訓練への参加協力を呼びかけたりするなど、少しずつ家族に理解が得られる取組みを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	年に2回の消防訓練と年に1回地震、風水害の訓練を行っている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	避難経路は地図を作成し掲示している。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	以前は年に1回は消防署立ち合いで訓練を行っていたがコロナ禍のため施設職員のみで訓練を行っている。	×	◎	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	コロナ禍のため共同訓練は行っていない。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	以前は運営推進会議で認知症についての勉強会等を地域の方を交えて行っていた。				事業所では、市行政や地域包括支援センターが実施する会議や研修に参画するなど、日常的に連携を取ることができている。また、現在のコロナ禍において、地域住民が事業所に相談に訪れることはないが、以前はホーム長が電話相談の対応をしたこともあるなど、事業所として、入居相談も合わせて、何かあれば相談に対応できる仕組みはできている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	以前は運営推進会議で呼びかけていた。		×	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	運営推進会議や夏祭り等で開放していた。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	研修生の受け入れを実施している。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	包括支援センターや地域からの案内は積極的に参加するように努めている。			○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 3 年 10 月 14 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	5名	

※事業所記入

事業所番号	3870103490
事業所名 (ユニット名)	グループホームすみれの園 梅干ユニット
記入者(管理者) 氏名	永見 圭
自己評価作成日	令和 3年 9月 20日

<p>【事業所理念】</p> <p>私たちは、利用者の方々の「その人らしい生活」を大切に、穏やかで安心感にあふれる充実した生活を送ることができるようサポートします。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>市内の中心部から少し離れた住宅地に、事業所は立地している。事業所では、職員同士の関係性が良好で、職員が相互に声をかけ合い、協力しながら支援することができており、利用者は穏やかで楽しそうに生活を送ることができている。また、ホーム長や管理者は、職員が何かあれば相談でき、話しやすい存在となっており、風通しの良い職場環境づくりができています。さらに、事業所の開設当初から、隣家の住民との交流が続いており、収穫した野菜を分けてもらったり、庭に咲いた花をもらうなどの良好な関係づくりができています。その近隣住民の紹介から、地域住民とのネットワークが広がっており、運営推進会議の参加メンバーも増加している。現在のコロナ禍において、面会や外出などの様々な制限があるものの、コロナ禍の収束後の活動再開の際には、家族や地域住民が参加する行事や外出など、さらなる活動の広がりが楽しみな事業所である。</p>
--	---------------------------------	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	利用者の意向を伺い希望に添えるようにしている。	◎	/	◎	入居時に、職員は利用者や家族から、思いや希望などの聞き取りをしている。また、日々の支援の中でも、利用者の思いを丁寧に聞き取り、職員間で共有できるよう努めている。さらに、事業所では、聞き取った利用者の意見や希望は、介護記録に残すほか、積極的に介護計画に盛り込むよう取り組んでいる。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	表情をよく観察し気持ちや思いを汲み取れようとしている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	ご家族様が来所されたときや電話で話すようにしている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	利用者の言動を記録している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	日常生活の中で利用者の思いを確認しながら複数の職員で話し合っている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入居時に本人や家族に聞き取りをし、入居後もお話の中で確認をしている。	/	/	○	入居時に、職員は利用者や家族から、生活歴や馴染みの暮らし方などを聞き、アセスメントシートに情報を記録している。また、以前利用していた介護サービス事業所や介護支援専門員からも情報を聞き、把握することもある。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	日々の会話やケアの中から利用者の有する力を確認し職員間で話し合い共有している。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	その時々感情の変化や言動を記録、申し送りをして情報共有を行っている。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	要因が何か話し合い、関わり方を見直している。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	利用者それぞれの違いを把握し、その方に合った生活の流れになるよう努めている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	日常の中で気がついた本人の求めていることを職員、家族で話し合い共有している。	/	/	◎	利用者等から聞き取った情報は、月1回実施するユニット会議を活用して職員間で情報共有するとともに、話し合いをしながらより良いサービス提供に努めている。また、利用者から出された意見は、可能な範囲で介護計画のサービス内容に反映できるようにしている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	その方にあった支援方法を職員で話し合っている。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	課題を明らかにし家族とも話し合っている。	/	/	/	

愛媛県グループホームすみれの園

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	思いや意向、暮らし方が反映されるように努めている。				事前に、職員が利用者や家族の思いや意見を聞くほか、関係者の意見を聞きながら職員間で話し合い、介護支援専門員を中心に、利用者等の意見を取り入れた介護計画を作成している。また、利用者の重度化もあり、最近では電話連絡時を活用して家族から意見や意向などの聞き取りをすることが多くなってきている。さらに、月1回実施するユニット会議の中で、介護計画の内容を検討して、積極的に職員の気づきやアイデアなども取り入れることができています。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人や家族からの意見や情報を取り入れて作成している。	○		○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	以前の生活等を家族から聞き取り、職員間で話し合い作成している。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	コロナ禍の為出来る範囲で協力体制を取れるよう努めている。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	個人記録やチェック記録を通して職員間で把握、理解している。			◎	ユニット会議の中で、介護計画の内容の話し合いをしていることもあり、内容を把握して職員間で共有している。また、事業所には計画のサービス内容に沿って、毎日のサービスの実施状況や目標達成をチェックできる工夫された表を活用して、分かりやすく記録に残すことができています。また、手書きの記録は丁寧に記載されており、今のところ、職員にとっても記録作業が過剰な負担にはなっていない。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	日々のケアの実践を介護記録に残し職員間で確認している。			◎	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	具体的な内容は個別に記録している。			○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	新たな築き等があれば記録するようにしている。			○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	3ヶ月毎、若しくは必要時に見直しを行っている。			◎	利用者の状態に特段の変化がない場合にも、介護計画は3か月に1回見直しをしている。また、月1回実施するユニット会議を活用して、利用者の現状を確認するなどのモニタリングを実施するとともに、計画の見直しの必要性も検討している。さらに、モニタリング時に変化が見られた場合や入退院時には、現状に即した介護計画の見直しをしている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	毎月評価を行い確認している。			◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	状態の変化に応じて本人や家族の意向を伺い計画を作成している。			◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	毎日のミーティングや毎月の会議で話し合っている。			◎	毎日夕方に行うショートミーティングや、月1回実施するユニット会議を活用して職員間で話し合い、情報共有をしている。緊急案件がある場合には、その日の出勤職員で話し合うとともに、参加していない職員にも会議録を確認してもらい情報が共有できるよう努めている。また、月1回ユニット会議の中で内部研修を実施し、職員が交代で講師役を務めている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	気がついたことを率直に話し合い活発な意見交換を行えるようにしている。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	出来る限り多くの職員が参加できるように努めている。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしきみをつくっている。	○	申し送りや会議録を通して情報共有を行っている。			◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしきみをつくっている。	○	申し送りや記録の確認を行うことで情報を共有している。			○	日々、申し送りやショートミーティングを実施し、口頭で情報を伝えているほか、日誌や申し送りノート等を活用して、より確実な情報伝達をしている。また、日誌やノートに確認欄は設けていないものの、口頭での申し送りや確認により確実に伝えることができています。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	口頭での申し送りや申し送りノートを活用し重要な情報が全ての職員に伝わるようにしている。	○			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	コミュニケーションを多くとることで希望を叶えられるようにしている。	/	/	/	利用者一人ひとりに合わせて、衣類や飲み物等の選択肢を用意し、職員は利用者自身で選んでもらうよう支援している。また、利用者にとって特にこだわりのない事柄は、選択してもらうこと自体が利用者の負担になる場合もあるため、個別での対応にも努めている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	更衣時の洋服選びや離床のタイミング等本人にお聞きしている。	/	/	◎	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	その都度お話しを傾聴し自己決定できるよう支援している。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	食事や入浴の時間はある程度決まっているがその他は声かけはするが本人のペースで行ってもらっている。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	日常の会話やレクリエーション等で明るい雰囲気を作っている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	表情や反応から意向や思いを汲み取って支援している。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	内部研修にて人権や尊厳についての意識向上を図り言葉かけや態度に注意している。	/	○	◎	難聴の利用者など、時には職員の声かけが大きくなることも見られるが、職員は意識してプライバシーに配慮した支援に努めている。また、訪問調査日には、衣類の乱れている利用者にも、さりげなく職員が整える様子を見ることができた。さらに、居室の入室時には、必ずノックや声かけをしてから入室することができている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	○	声の大きさに注意し支援を行っている。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	利用者のプライバシーを大切にしている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室訪問時は必ずノックをしてから入室している。	/	/	◎	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	理解し遵守している。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	利用者との信頼関係を大切にしお互いに感謝しあえるよう関係性を築けるよう努めている。	/	/	/	事業所では、利用者同士や職員との相性などを事前に把握し、トラブルを未然に防ぐことができている。また、配席やいすの向きを変えるほか、相性が悪く、トラブルが多かった利用者にも、以前ユニット間を移動してもらい、対応したこともある。さらに、現在は利用者同士で助け合う姿も見られ、穏やかに過ごすことができている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らすしていくことの大切さを理解している。	○	利用者同士のコミュニケーションの大切さを理解している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	利用者同士の関係性やそれぞれの性格等を把握しトラブルの無いよう時には職員が間に入りながら支援している。	/	/	◎	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	早めに仲裁に入り周りの利用者が不安にならないように努め、当事者にはそれぞれのお話をお聞きし穏便に済むよう努めている。	/	/	/	

愛媛県グループホームすみれの園

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	見学時や入居時に本人や家族からお話を聞いている。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	本人や家族から確認し把握している。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	コロナ禍の為直接会うことは難しいが知人や友人に関して家族から電話でお伝えしていただいている。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	△	コロナ禍の為現在は難しいが終息後は気軽に来設していただけるよう接していきたいと思えます。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	コロナ禍の為庭先程度の散歩や外気浴、近所のドライブ等しか行っていないが、終息後は利用者の希望の場所への外出を行いたいと思えます。	×	○	○	現在のコロナ禍において、買い物や外食などの外出できる機会は激減している。利用者の状態にかかわらず、近隣を散歩したり、敷地内にある畑の野菜の生育状況を見に行ったり、外気浴をするなど、利用者が気分転換できる機会づくりに努めている。また、少人数でドライブに出かけ、車窓から景色を楽しむこともできている。さらに、洗車に行く際に利用者も同行するなど、ちょっとした外出ができる機会を活用しながら、少しでも利用者が楽しめるよう工夫している。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	コロナ以前も外出時は職員のみで行っていた。現在はコロナ禍の為外部の方との接触をなるべく控えている。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	天気の良い日には庭先に出て気分転換をして頂いている。				
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	×	コロナ禍の為行っていない。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	研修にて認知症の理解を深め日々のミーティングにて利用者の状態の確認を行っている。				事業所では、時間がかかっても利用者自身ができるように、職員はしっかりと待つ支援をすることができている。また、他の利用者がしている様子を見ながら、一緒に作業を始めようとする利用者もおり、職員は必要以上に口や手を出しすぎないよう配慮している。さらに、散歩や体操などを取り入れ、利用者の心身機能の維持に努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	食事前に手足の運動や口腔体操を実施している。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	利用者の能力を把握し、掃除や洗濯物のたたみ、食器拭きをお願いしている。	◎		◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	日々の生活の中で有する力を見出しその方に合った役割や出番作りをしている。				家事や手芸が得意で、やりがいにしている利用者や、利用者と一緒に体操することも嫌がる利用者がいるなど、一人ひとりの楽しみが異なるため、職員は把握しながら個別の対応に努めている。洗濯物干しやたたみ、台拭き、レクリエーションなど、利用者に応じた役割や出番づくりにも取り組んでいる。また、他の利用者と一緒に作業や活動をしたがらない利用者には、個別に散歩に出かけるなど、利用者一人ひとりに楽しみを見つける工夫をしている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	それぞれにできる事得意な事を役割を決め一緒にしていただいている。	○	◎	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	コロナ終息後は地域の方とのコミュニケーションを増やしていけるよう努めたい。				

愛媛県グループホームすみの園

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしやれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしやれについて把握している。	○	更衣時声掛けし本人の意向を尊重し選択できるようにしている。				馴染みの美容室へ家族と一緒にしかけていた利用者もいるが、現在はコロナ禍において中止している。事業所では、訪問理美容を手配し、満足度も高く、ほとんどの利用者が利用して整髪をしている。また、訪問調査日には、職員が利用者の衣類の乱れをさりげなく直している様子を見ることができた。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	本人や家族の希望を聞きそれに応じて支援している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	可能な範囲で希望に添えるようアドバイスしている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	季節に合った服装を本人と選択している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	食べこぼしや汚れはさりげなく声かけするようにしている。	◎	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	コロナ禍の為希望の店舗にはいけない。訪問理美容を活用している。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	整容や更衣を本人にお聞きしながら一緒にやっている。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食事はただ栄養を摂取するということだけでなく楽しみや生きがい生活リズムを感じるための重要な行動であることを理解している。				毎食、ユニット毎に職員が順番に、利用者調理の下ごしらえを手伝ってもらいながら調理をしている。その週などの調理の当番になっている職員が、前もってメニューを考え、それに合わせて食材を注文し、週3回程度スーパーから食材を配達してもらっている。利用者に食べたいメニューを聞いているものの、あまり意見が出ないため、職員が季節感のあるものや、栄養バランスなどに配慮した献立を考えている。共用スペースにあるオープンキッチンで調理しており、利用者は調理の音や匂いも感じることができている。茶碗や箸は、入居時に持参してもらい、利用者は使い慣れた物を使用している。また、利用者の食事形態に応じて、あらかじめ切り分けて配膳したり、ミキサー食の対応をしたりするなど、利用者が食べやすい工夫している。さらに、利用者と一緒に食事を食べることはできないものの、職員は声かけや見守り、サポートをしている。最近、利用者から「握り寿司が食べたい」というリクエストが出され、職員はコロナ禍が収束し、みんなで外出できるようにになれば、回転寿司の外食に出かけることを検討している。加えて、栄養士までのアドバイスはもらえていないものの、職員間で話し合うことができている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	リクエストメニューなどを取り入れ食器拭きなどの後片付けにも参加していただいている。			◎	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	コロッケ作りのお手伝い等していただいている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	会話の中で好きなもの嫌いなものを把握しアレルギー等に関しては入居時に聞き取りしている。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	○	季節に応じた食材を選び提供している。			◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いらずや器の工夫等)	○	一人ひとりの状態に合わせて食事の形態や盛り付け彩り等も工夫している。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使いやすいものを使用している。	○	本人が持って来られたものや使いやすいものを提案している。			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	一緒に食事は摂れていないが利用者一人ひとりの様子を観察し、さりげないサポートや介助を行っている。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	食事内容を声かけしながら食事介助を行っている。		◎	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	食事量や水分摂取量はその都度記録し把握している。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	本人の好きなものや好きな飲み物を提供し低栄養や脱水にならないようにしている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	職員間で話し合い偏らないようにしている。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	食材の温度管理等に注意し、調理器具は毎日ハイターで消毒を行っている。				

愛媛県グループホームすみの園

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	口腔ケアの重要性を理解し利用者に合わせて必要時には介助を行っている。	/	/	/	毎食後、利用者は歯磨きなどの口腔ケアを実施している。支援が必要な利用者には、職員が付き添いリビングに設置されている洗面台で歯磨きを行い、磨き残しなどのフォローをしている。また、定期的に、事業所では利用者の口腔内の状況を把握することができており、痛みや出血などの不具合が生じた場合には、歯科医の訪問診療に繋げることができている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口腔ケア時に確認している。	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	訪問歯科協会からのパンフレットやポスターを参考にしている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	毎日洗浄を行い不具合が発生した場合には協力医療機関に連絡し治してもらっている。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	しっかり磨けていないところを介助するようにしている。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	何かあれば協力医療機関に連絡し訪問歯科で診てもらっている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	立ち上がりが可能な方はトイレでの排泄が出来るように支援している。	/	/	/	職員は、利用者一人ひとりの排泄チェック表で、排泄パターンを把握し、声かけやトイレ誘導をしている。紙パンツやパッドなどの排泄用品の使用について職員間で話し合い、利用者や家族に相談のうえで使用している。中には、布パンツで生活しても問題ないと思われる場合にも、失敗などの不安から、「紙パンツの方が安心できるから」などという利用者もおり、利用者一人ひとりの要望にも配慮している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	便秘のメカニズムについて理解している。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄チェック表を活用し一人ひとりの習慣、パターンを把握している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	利用者の状態を確認し、それぞれに合った排泄方法を行っている。	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	職員間で意見交換や情報共有を行い、また医療機関とも連携し、服薬等も相談している。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄チェック表をもとに早めの声かけ、誘導を行っている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	利用者の状況に合わせてその都度対応している。また使用物品についても本人や家族と話し合っている。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	時間帯に応じて紙パンツ、パッド、オムツを使い分けている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	食物繊維等を取り入れたバランスの良い食事の提供を心掛けている。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	△	時間帯等はたまに決めて入浴していただいているが、拒否等があった場合には翌日に入浴していただいている。	◎	/	○	事業所ではある程度の曜日や順番を決めて、利用者に声をかけ、入浴してもらっている。職員は利用者の希望に合わせて、随時変更しながら入浴支援の対応をしている。また、浴槽をまたぐことが難しくなった利用者には、浴槽に浸かれないため、利用者や家族に相談して、シャワー浴の対応をしている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	職員との会話、リラックスできるような雰囲気作りにも気をつけている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	必要なところのみ介助するようにしている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いにせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	本人の話を傾聴し、拒否の原因を探り、会話や時間帯等の工夫をしている。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前にはバイタル測定を行い入浴後にも体調の変化がないか注意している。	/	/	/	

愛媛県グループホームすみれの園

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	記録や申し送りで確認している。				就寝前に、眠剤を処方されている利用者もいるものの、ほとんどの利用者は、夜間に良眠することができている。主治医には、利用者の睡眠状況について、随時様子を報告している。中には、毎日起床が夜中の2～3時頃の利用者もいるものの、睡眠不足によりつらそうな様子は見られないため、見守りながら利用者に応じた生活リズムで過ごしてもらっている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中にレクリエーション等で運動し、庭先での日光浴なども取り入れ生活リズムができるようにしている。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	日中の過ごし方を工夫し、それでも夜間眠りづらいことがあれば主治医に相談している。				
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	自室やリビングで休めるよう自由に過ごしていただいている。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	要望があれば電話や手紙のやり取りの支援をしている。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	要望があれば支援しているがこちらから手紙や電話をさせませか？等の声かけはあまり行っていない。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	家族の依頼、了承があれば電話している。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	お手紙をお渡しし一緒に読んだり、要望があれば返事や電話をしている。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	ご家族に理解や協力はしてもらっているが、家族から電話や手紙をくれるようにはお願いはしていない。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大きさを理解している。	△	一部の入居者以外、お金の管理は職員がしている。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	新型コロナウイルスの流行前は一緒に買い物に行っていた。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	買い物先への協力を得る働きかけは特には行っていない。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	家族と相談の元、小口現金という形でお金をあずかりそこから買い物や必要時に使用している。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	入居時に話し合っている。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	管理方法の説明と毎月出納の確認もしていただいている。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	状況や希望に応じて対応している。		◎	◎	現在のコロナ禍において、事業所では外出や面会の制限を設けているものの、利用者や家族の希望には、可能な範囲で対応できるよう努めている。また、他の利用者と一緒に体操するのが嫌な利用者には個別で散歩に出かけたり、面会を切望される利用者には、窓越しでの面会に対応したりするなど、工夫した対応をしている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3)生活環境づくり										
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	ウエルカムボードを入居者と一緒に作成し玄関に置いている。	○	◎	○	現在のコロナ禍において、事業所では面会制限を設けているため、玄関の施錠はしていないものの、来訪者にはインターホンでの対応をしている。また、手先が器用な利用者を中心に、毎月季節感のあるウエルカムボードを作成してもらい、来訪者を出迎えている。さらに、広々とした玄関は整理整頓され、入りやすい雰囲気を感じられるよう工夫されている。	
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものを置いている殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	リビングには利用者と一緒に行った季節の飾り物をかざったり廊下の壁には行事等の写真を貼っている。	◎	○	◎	共用空間には、利用者と職員が一緒に作成した季節の飾りつけをするなど、明るい雰囲気が感じられる。また、毎日職員が掃除や消毒を行うとともに、温度調整や換気もされ、快適な空間となっている。さらに、共用空間は整理整頓され、利用者の歩行や車いすがスムーズに通れるようにしている。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	清掃は毎日行っており、利用者に合わせて電気やカーテンの調整、エアコンで温度調整をしている。	/	/	/		◎
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	キッチンがリビングの中にあり調理の音や臭いを感じ取れるようになっている。	/	/	/		◎
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	リビングや居室を本人の自由に行き来していただいている。	/	/	/		/
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	△	戸の開け閉めの際、みえてしまっていることがある。	/	/	/		/
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもので生活して、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	テレビや使い慣れた家具、家族の写真などを飾られている。	◎	/	◎	居室には、利用者の趣味の物や写真を飾っているほか、自宅からいすやテレビなどを持ち込み、居心地の良い空間づくりをしている。	
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	利用者のできること、わかることを職員間で共有し自立した生活が送れるよう支援している。	/	/	◎	トイレなど、利用者が場所を分かりやすいよう大きな表示をしている。また、居室の入り口には、利用者の氏名と写真を貼り、居室を間違えないよう配慮されている。さらに、共用空間や廊下は整理整頓され、利用者の動線が確保されている。	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	不安や混乱があったときの状況を確認し原因を検討し次に同じようなことがないようにしている。	/	/	/		
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	居室に馴染みのものや趣味などの道具を置きいつでも手に取れるようにしている。	/	/	/		
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	△	利用者の状況で鍵をかけることもあるが、外に出たいとの要望があれば一緒に外に出るようにしている。	x	◎	○	職員は鍵をかける弊害について、内部研修等で学び、十分に理解をしている。事業所では、日中玄関の施錠はせず、夜間は防犯のため施錠をしている。また、その時々利用者の状態や職員配置により、必要最低限でユニットの入り口を施錠をすることもある。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	ユニット入り口の鍵については見学时、入居時に説明している。	/	/	/		
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	出来る限り鍵をしなくてもよいよう掃き願望や落ち着きのない方には一緒に外へ散歩するなどしている。	/	/	/		

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	アセスメント表の確認や受診往診ノートの確認で把握している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	毎朝バイタル測定を行い記録している。またバイタルの異常や体調不良、本人の訴え等も記録し必要時には主治医へ相談している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	気になることやわからないことがあれば早めに主治医に連絡するようにしている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	面談時に現在のかかりつけ医等を確認し、入居後の医療について家族、本人の希望にそって医療が受けられるようにしている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	家族、かかりつけ医、事業所で連絡を取り合い適切な医療が受けられるよう配慮している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	通院や受診時には緊急時以外は前もって本人、家族に伝え合意のもと行っている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院時はサマリを作ったり、入院先の看護師に直接、情報提供を行っている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	定期的に連絡をし、現在の状況を確認している。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	病院関係者とは常に情報交換をしている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	日常の状態に関しては訪問診療時に常に主治医に報告し何か異常があった場合には早めに連絡し相談している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	24時間医療機関と連絡が取れる体制がある。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	毎日バイタルチェックを行い、主治医に相談しながら状態にあった支援をしている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	薬の説明書をファイルにまとめ職員全員が把握できるようにしている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	必ず職員2名で薬の確認を行い誤薬がないようにしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	状態の変化を記録し症状によっては直ぐに主治医に報告するようにしている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	特に薬の変更があった場合は服薬後の状態を記録し医療機関へ情報提供を行っている。				

愛媛県グループホームすみれの園

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	契約時に重度化の指針の説明をし状態の変化に合わせて意向の確認をしている。	/	/	/	事業所には、「重度化した場合の対応に係る指針(看取り介護指針)」があり、入居時に利用者や家族に説明して、同意を得ている。看取り介護の希望がある場合には、状態に応じて、利用者や家族、主治医を交えて丁寧に話し合い、今後の方針を検討している。また、24時間体制で訪問診療を行っている主治医が多く、急変時にも対応してもらえることから、利用者や家族にも安心感があるとともに、職員も安心して支援することができる。さらに、浴槽をまたぐことが困難になった利用者には、一般浴槽に浸かれず、シャワー浴となってしまうことを伝えるなど、重度化した際に事業所として対応できることの限界について、丁寧に利用者や家族に説明している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	本人の状態の変化に合わせて家族、医師を交えてカンファレンスを行い今後の方針について話し合っている。	○	/	◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	状態の変化等、急変時の対応の話し合いを行っている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	事業所のできること、できないことに関しては契約時から本人の状態の変化があった時などその都度、説明理解を得ている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	医療との連絡を密に取り家族の希望や本人の思いを汲み取りながら支援にあたっている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族の話に傾聴している。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	定期的に職場内研修を行っている。	/	/	/	/
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	感染症が発生した場合の訓練は行っていない。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	インターネットや松山市からのメールで確認している。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	医療機関やインターネットから情報を収集し対応している。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	手洗い、アルコール消毒、マスクの着用、検温を行っている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	家族との連携を図り共に本人を支えていく関係を築けている。	/	/	/	毎月、利用者毎の担当職員を中心に、手紙を書いて送付し、利用者の様子を伝えている。必要時には、電話連絡で利用者の近況を伝えることもある。事業所内の行事報告や予定も知らせることができているものの、現在のコロナ禍において、事業所の面会を控えていることもあり、行事への参加は自粛してもらっている。また、運営推進会議や防災の備え、外部評価のサービスの評価の取組みについて、事業所として実施している活動内容が、利用者家族等アンケート結果から、家族に十分に伝わっておらず、理解が得られていないことが窺えるため、今後は、写真付きの分かりやすい事務連絡を作成したり、コロナ禍の収束後には家族の来訪時に報告をしたりするなど、家族の理解が得られるような取組みを期待したい。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	家族との関係は良好だが現在は新型コロナウイルス感染対策のため面会は制限させていただいている。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	△	毎月のお手紙で行事の予定はお伝えしているが一緒に何かを行うということは現在は控えている。	/	x	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	お手紙以外に電話でも近況の報告をしている。	/	◎	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	何か気になっていることはありませんか？と問いかけお話を傾聴している。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	本人と家族のこれまでの関係性を大切にし来設時や電話で説明している。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	電話や手紙でその都度報告している。	/	x	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	コロナ禍の為家族を交えての行事等は行っていない。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	状態に合わせてその都度説明している。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	定期的に連絡し、現在の希望や思いを伺っている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	お時間をつづいていただき具体的に説明している。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	契約時にも説明しており、退去先の支援も行っている。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	具体的な説明を行い文書で示している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	△	運営推進会議で認知症に関する勉強会等をしてきたが現在はコロナ禍の為、文章開催している。	/	○	/	現在のコロナ禍において、事業所では外出制限や面会制限を設けているため、地域との積極的な交流は控えている。コロナ禍以前は、地域の清掃活動に参加したり、運動会などの地域行事に参加することができていた。現在は、事業所周辺の散歩時に、地域住民と挨拶をしたり、近隣住民から野菜や花の差し入れをもらったりするなどの交流は継続している。また、運営推進会議は書面開催となっているため、会議の参加メンバーとの交流も中断しているが、集合形式の会議の再開時には、積極的な地域行事への参加なども期待することができる。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	以前は地域の行事に利用者と一緒に参加していたが現在はコロナ禍のため控えている。	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	地域の消防士の方を中心に防災に関して協力支援に力を入れてもらっている。	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	近所の方から、庭に花が咲いたのでと持ってきてくださることもある。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	散歩等で顔を合わせたときにはあいさつをしている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	以前は夏祭りにきていただいたりボランティアに来ていただいたりしていた。現在はコロナ禍のため控えている。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	施設の周りに何があるのかを把握し、利用者の希望や関係性を考えながら散歩をしたり以前は一緒に買い物をしてきた。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	コロナ禍以前は運営推進会議に参加していただいたり利用者と一緒に町内清掃に参加し関係を深めていた。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	地域の方は毎回参加されていたが家族の参加はほとんどなかった。現在は文書開催を行っている。	x	/	○	現在のコロナ禍において、運営推進会議は文書開催となっている。コロナ禍以前の集合形式で会議には、民生委員や近隣住民など、幅広く参加を得ることができていた。また、会議へ家族の参加が少ないことが課題となっていたが、ホーム長等は全ての家族に会議への参加を呼びかけ、「今後、行事と合わせて会議を開催する」などの工夫を検討している。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	活動状況を文章で報告している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	x	文章開催なので提案、意見交換等は出ていない。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	x	文書開催なので特に日程や時間帯は考慮していない。	/	/	○	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	△	介護保険課や包括支援センターにFAXしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念に基づいてケアプランを作成し、サービスを実施している。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	利用者や家族には契約時にお伝えしている。	○	◎		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	定期的職場内での研修を行っている。コロナ禍のため外部での研修の参加は少なくなっている。				毎月実施するユニット会議を活用して内部研修を実施し、職員が順番に講師役を務めるなど、スキルアップに努めている。ホーム長は、定期的に職員と面談をする機会は設けていないものの、業務の中で職員と1対1で話す機会があれば、ゆつくりと話を聞くことができている。また、ホーム長と管理者は、日々の職員の様子に気を配りながら、何かあれば相談しやすいよう配慮しており、職員の聞き取りからも、「ホーム長や管理者に対して、何でも話しやすい」などの話を聞くことができた。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	入社3か月程度で夜勤の業務ができるように育成している。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	個別面談を行い職員から話を聞き今後についても向上心を持って取り組んでいけるよう話をしている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	コロナ禍以前は外部の研修に積極的に参加してもらっていた。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	ユニット長以外の職員にも話を聞き悩みやストレスが解消できるよう助言している。	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	年に2回の虐待に関する研修や3か月毎に身体拘束適正化検討委員会を開き内容を職員全員に周知している。				事業所では、身体拘束適正化委員会を開催して職員間で話し合うとともに、虐待防止に関する内部研修を実施している。利用者の心身状況により、職員は対応に苦慮することがあるものの、そのような場合には周りの職員が一緒にかかわり、助け合いをしてくれるなど、安心して日々の支援ができています。また、不適切なケアが見られた場合には、ホーム長や管理者等が確認し、注意喚起をしている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	職員の言動をみながらケアについて話を聞き助言している。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	研修を通して周知している。				
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	職員の表情や話す内容に注意普段と様子が違うなと感じた場合は個別に話を聞くようにしている。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	内部研修や身体拘束適正化検討委員会で理解を深めている。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	身体拘束適正化検討委員会で行っている。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	契約時に原則身体拘束は説明している。家族から要望があった場合も本当に必要なのかをしっかりと話し合うようにしている。				

愛媛県グループホームすみれの園

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	研修を通して理解を深めている。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	利用者、家族の現状を把握しそれぞれに合った情報を提供している。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	相談の内容によっては包括支援センターや社会福祉協議会へ繋げている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルを作成し研修を行っている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	定期的な訓練は行っていない。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハットも記録に残し職員間で情報を共有し再発防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	職員間で話し合い検討している。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルを作成し検討している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	マニュアルに沿って対応している。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情の原因をしっかりと把握し職員間で話し合い改善や結果をお伝えし良好な関係作りに努めている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	日常の言動やお話から意見や希望を聞くようにしている。			○	日頃から、事業所では、利用者や家族から何かあれば相談をしてもらえるよう、話しやすい雰囲気づくりに努めている。ホーム長等は、あまり利用者や家族から意見が出されない現状があり、今後意見を出してもらいやすいような工夫を検討している。また、職員はホーム長等に、日々の業務の中で意見を伝えることができるほか、ユニット会議の中でも伝えることができ、全ての職員は積極的に発言することができている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	来所時や電話で意見や思いを聞くようにしており、玄関に意見箱の設置をしている。	◎		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	状況に応じて窓口の情報提供を行っている。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	職員と一緒に現場で働き、直接話も聞いている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	毎月の会議で職員の意見を聞き利用者の暮らしがより良くなるために話し合っている。			◎	

愛媛県グループホームすみれの園

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	年に2回実施している。				外部評価の自己評価は、職員の意見を参考にしながら作成している。外部評価のサービスの評価結果は、運営推進会議の中で報告するほか、家族にも報告している。これまで、運営推進会議の参加メンバーや家族等から外部評価に対する意見があまり引き出せていなかったことから、ホーム長等は、今後は報告方法等の工夫を検討している。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	評価を確認し課題の検討を行っている。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	現在は家族や地域からの評価は受けていない。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	運営推進会議の議事録は市にFAXしている。	○	○	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	運営推進会議は文章での開催の為会議での確認は出来ない。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	火災、地震、風水害に対する訓練を行っている。				年3回、消防署の協力を得ながら、火災や地震などの災害を想定した避難訓練を実施している。現在のコロナ禍において、消防署等の協力は得られておらず、事業所の職員のための訓練となっている。また、事業所からの避難経路のほか、近隣の避難先を職員手づくりの地図を作成して各ユニットの廊下に掲示するなど、防災意識を高めている。また、運営推進会議の参加メンバーの中に、防災士の資格を持つ地域住民がおり、防災に関する様々な指導を受けることもできている。利用者家族等アンケート結果から、コロナ禍で来訪する機会が激減していることもあり、防災に関する理解が得られていないことが窺えるため、訓練の様子を家族に伝えたり、コロナ禍の収束後には家族に訓練への参加協力を呼びかけたりするなど、少しずつ家族に理解が得られる取組みを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	年に2回の消防訓練と年に1回地震、風水害の訓練を行っている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	避難経路は地図を作成し掲示している。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	以前は年に1回は消防署立ち合いで訓練を行っていたがコロナ禍のため施設職員のみで訓練を行っている。	×	◎	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	コロナ禍のため共同訓練は行っていない。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	以前は運営推進会議で認知症に関しての勉強会等を地域の方を交えて行っていた。				事業所では、市行政や地域包括支援センターが実施する会議や研修に参画するなど、日常的に連携を取ることができている。また、現在のコロナ禍において、地域住民が事業所に相談に訪れることはないが、以前はホーム長が電話相談の対応をしたこともあるなど、事業所として、入居相談も合わせて、何かあれば相談に対応できる仕組みはできている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	以前は運営推進会議で呼びかけていた。		×	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	運営推進会議や夏祭り等で開放していた。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	研修生の受け入れを実施している。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	包括支援センターや地域からの案内は積極的に参加するように努めている。			○	